

羅針盤

平成 28 年度 第 2 号 (通算 253 号)
 平成 28 年 4 月 15 日 (金) 発行
 岡山県総合教育センター
 Tel (0866)56-9101 Fax (0866)56-9121

気になる子供の実態把握について～アセスメントシート分析パッケージの活用～

新学期が始まり、1週間が経ちました。子供たちも新しいクラス、友達そして先生に慣れ、次第に落ち着いた学校生活を送ることができるようになってきているのではないのでしょうか。しかし、全体が落ち着いてくると、気になる子供の姿が目立つようになってきます。これらの子供に適切な関わりを行うためには、その子の実態を的確に把握する必要があります。そこで今回は、実態把握ツールとして、昨年度に当センター特別支援教育部の共同研究で開発したアセスメントシート分析パッケージ（以下、「分析パッケージ」と言う）を紹介します。

アセスメントシートとは、子供たちの学習に関わる認知面の特性を八つの観点（図1）から測定し、把握した困難さを軽減する支援を行うための実態把握ツールです。例えば、問題⑧の得点が低い場合、「聴覚的な短期記憶」に困難さがあることが推測されます。そのため、指示や説明の際には、視覚情報を添えるなどの配慮を行うことで困難さが軽減されます。さらに、それぞれの観点を単独で理解するだけでなく、複数の観点を関連付けることで更に詳細な実態を把握することができます。そこで当部では、複数の観点を関連付けて子供たちの学習上の困難を把握し、それに対応した指導・支援の方法を一括して提供する分析パッケージを新たに開発しました。今回は、その中でも「個別理解シート」に焦点を当てて紹介します。

①「ことばを見つけよう」	音読・黙読
②「書き写そう」	視写
③「見た数を答えよう」	視覚的な短期記憶
④「説明を聞いて答えよう」	聴覚的な言語理解
⑤「何の絵でしよう」	他者理解・状況理解
⑥「形を写そう」	図形の認知
⑦「ひらがなを見つけよう」	注意・集中
⑧「聞いた数を答えよう」	聴覚的な短期記憶

図1 アセスメントシート八つの観点

○「個別理解シート」 標準得点が40点以下の観点があった場合、推測される学習上の困難さとそれに対応する指導・支援の内容を「個別理解シート」（図2）のコメント欄に自動表示するようにしました。



図2 「個別理解シート」

左図の子供は、問題④⑧の標準得点が40点以下で、配慮を要するという意味の赤色表示がなされています。

問題④⑧の観点を関連付けた推測される学習上の困難さが記述されています。
 記述内容：「聴覚的な情報入力に困難さがあるため、集団場面や長い説明の際には、話の内容を聞き取れていなかったり、聞いたことを理解したり、記憶したりすることができず、話し合いについていけなかったりすることなどが予想されます。」

推測される学習上の困難さに対応する指導・支援の例が記述されています。
 記述内容：「聞く活動の際には、注意を喚起し、きちんと注目したのを確認してから指示や説明をしたり、分かりやすい言葉で簡潔に指示をしたり、聞き誤りやすい言葉は板書をしたりするなどの配慮が有効であると考えられます。」

通常の学級における特別支援教育の観点を取り入れた授業づくりを進めるに当たって、様々な認知特性を示す子供たちの的確な実態把握ツールとして、ぜひ分析パッケージを御活用ください。ただし、子供の実態把握をする際には、分析パッケージによる実態把握とともに、これまでどおり教員による授業の行動観察を併せて検討し、総合的に実態把握をすることが必要です。その点に留意して、アセスメントシートを活用するようお願いいたします。分析パッケージの活用を希望する学校には送付します。当センター特別支援教育部まで電話で御連絡ください。
 【電話番号 0866-56-9106】また、分析パッケージの詳細は、研究紀要第9号を御覧ください。

<http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/chousa/kiyou/h27/15-05.pdf>

(担当・特別支援教育部)

【バックナンバー】 <http://www.edu-ctr.pref.okayama.jp/sougou/koho>